日本動物学会アンケート回答データの分析結果

男女共同参画学協会連絡会は、平成 15 年度文部科学省委託事業として「21 世紀の多様化する科学技術研究者の理想像―男女共同参画推進のために―」と題する調査研究において、約２万人規模のアンケートを実施しました。日本動物学会も調査研究に加わり、584 名の会員が回答しました。その 584 名のデータの提供を受け動物学会男女共同参画委員会で分析しましたので、その結果を公表します。前半には簡単な解説を、後半にはグラフを示します。［全分野平均］とは約２万人の回答者の結果で、動物学会のホームページからアクセスできます。

１）回答者の年齢別分布と女性比率

動物学会員の中で女性が占める割合は 20.2%であるが、回答者中での女性の割合は 26.6%と、回答者の中で女性が占める比率は高い。

男性の回答者数が多いのは 30 代であるが、女性では 25 歳から 34 歳までの回答者数が多い。回答者に占める女性比率の年齢分布は、比率の最も高い 20 台前半で 60%に達する［全体平均では 25%前後］が、これは 24 歳以下の男性会員の回答数が、他の学会に比べて低いことに起因している。女性比率が最も低いのは 50 台前半でおよそ 15%であるが、全体平均の最低値[最も低い 50 台後半で 8%程度]と比較すると高い比率を示しており、また 30 代後半以降、その比率が比較的安定している。

２）配偶者のいる比率

40 歳代後半、60 歳以上を除いた年代で、動物学会女性会員の既婚率は全分野平均に比べて低い。特に 20 代の女性の既婚率は極めて低い。

３）子供の数の年齢分布

全分野平均と同じような傾向であり、女性会員の子供数は最終的には男性の半分である。

４） ５）勤務形態と職位

男性の常勤（任期なし）は 70%弱で、全分野平均とほぼ等しいが、女性の常勤（任期なし）は 40%弱と低い［全分野平均は約 52%］。一方、女性の常勤（任期つき）は 20%強と高く［全分野平均は 15.4%］、非常勤も 10%を越えている［全分野平均は 7.8%］。

役職で女性比率が高いのは技官（約 60%）である［全分野平均は 50%弱］が、大学院生、ポスドクも全分野平均と比べると高比率である。特に、女性院生は約半数を占める。一般社員、主任クラス、助教授の女性比率は全分野平均を少し上回るものの、その他は全分野平均平均と同等か下回っている。

６）研究開発費年額

研究費に関する男女の差は大きい。特に大学では、20 歳代、60 歳以上を除き、すべての年齢において、女性の研究費は男性のそれに比べて半分以下である。大学における女性会員の研究費は全分野平均を大きく下回っている。

7）8）離職・転職

転職・転職の理由として、家族の転勤、勤務地、任期などを挙げる女性会員の比率が全分野平均より高い。転職の結果、常勤（任期なし）の職を得ている率が、女性では全分野平均よりも 20%弱も低くなっている。一方、常勤（任期付き）は女性では約 43%［全分野平均は約 26%］、非常勤は約 32%［全分野平均は約 20%］と多い。

9）10）育児について

子供がいる場合、平日の育児担当者については全分野平均と大きくは変わらない。ただし、男性会員では、配偶者とする回答が全分野平均より低く、保育園が高い数値を示しているので、共働きの多さを表していると想像できる。

育児休暇後、男性回答者の全員が「同じ職務に復帰」と答えているが、女性では職務が変わった率が全分野平均より高くなっている。

11）12）13）意識調査

女性研究者が少ない理由の分布は、全分野平均とほとんど同じである。仕事と家庭の両立が困難と考えている男女会員が最も多い。ただ、全分野平均では、男性の意識より女性の意識が問題であると考える男性が多いのに比べ、動物学会の男性会員は、男性の意識が問題と考える率が高く、興味深い結果である。男女の処遇の差についての意識では、全分野平均と傾向はほぼ同じであるが、採用、昇進・昇給を指摘する比率は動物学会で高い。仕事と家庭等の両立に必要なものについては、全分野平均と同様な傾向である。

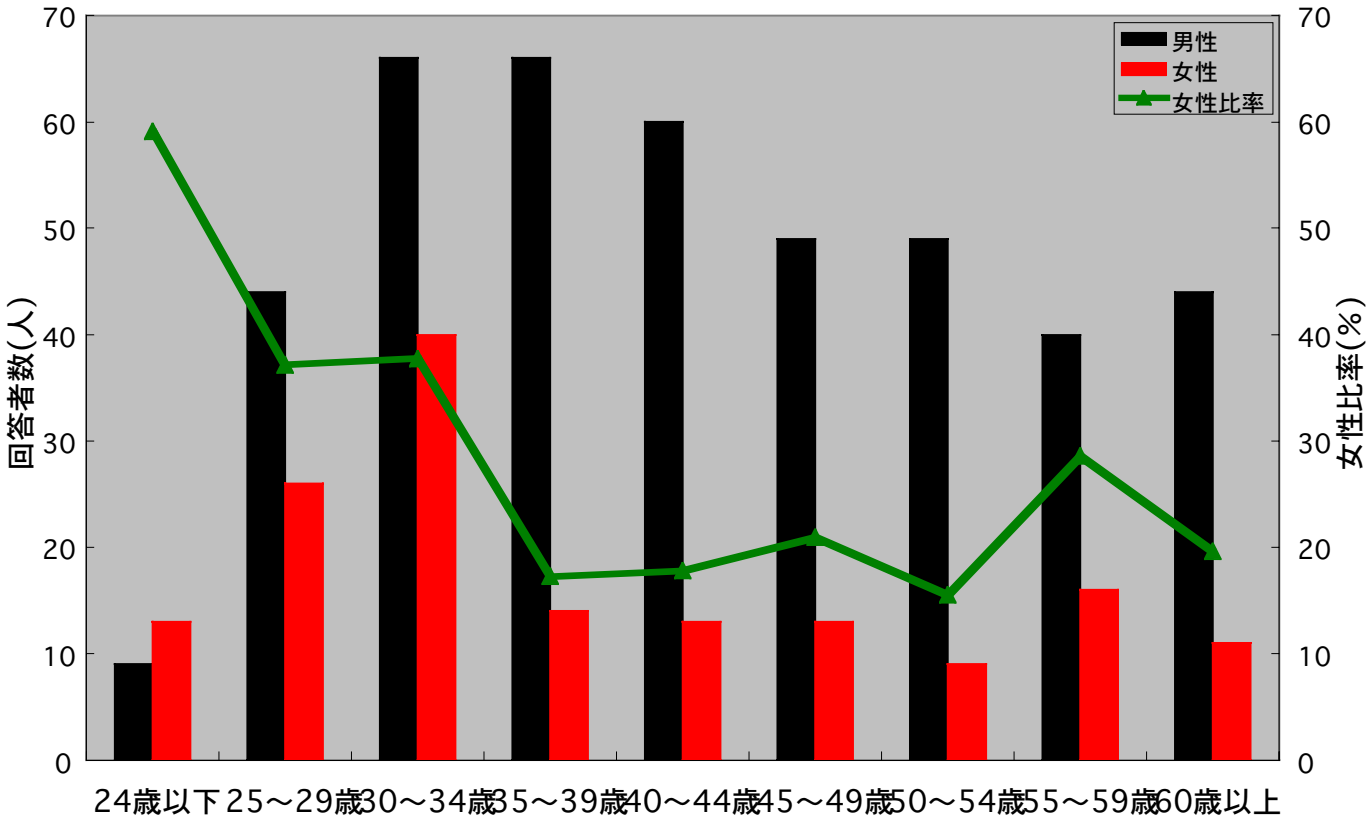
なお、このデータ分析においては、菊地賢一氏（東邦大学理学部情報科学科）の御協力を得ましたので、ここに感謝の意を表します。

動物学会男女共同参画委員長
大島　範子

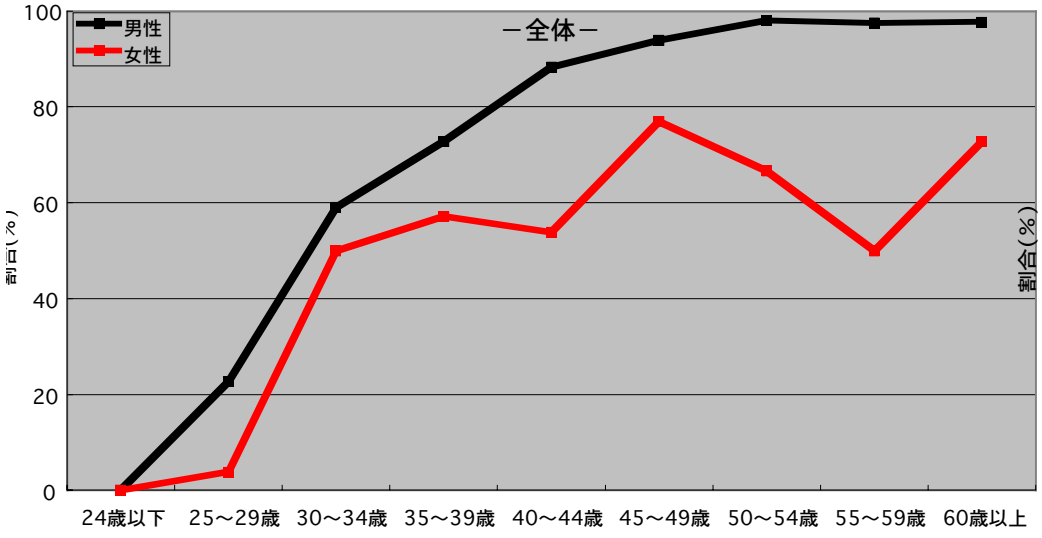
日本動物学会　アンケート分析結果(13 項目)

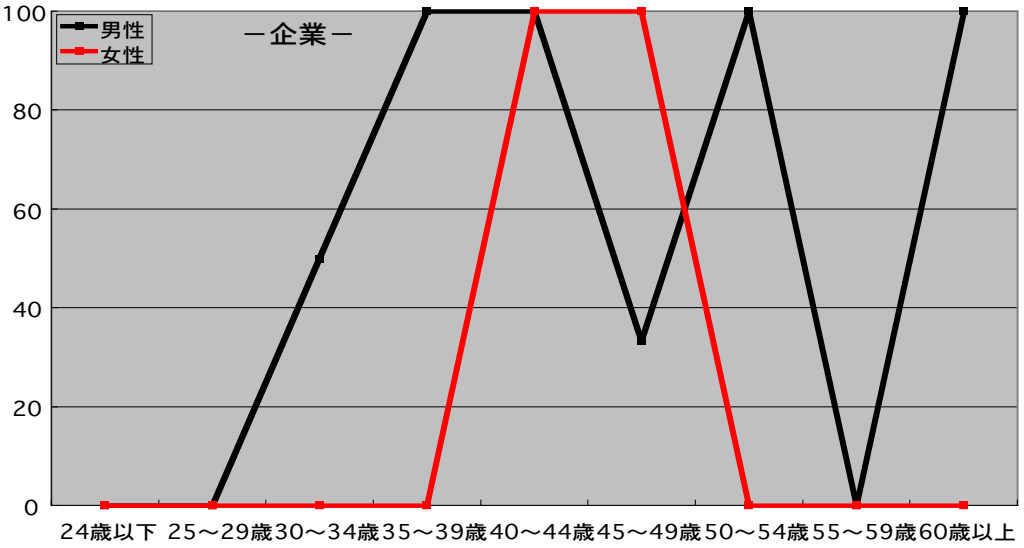
回答者数　584 人　(男 427、女 155、不明 2)
回答者女性比率　26.6%
会員女性比率　20.2%

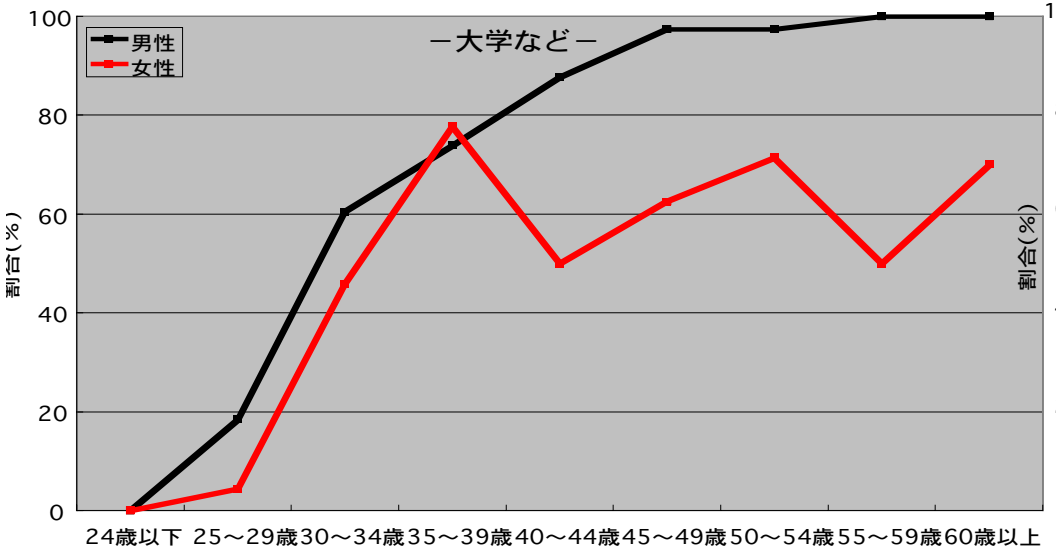
１．回答者の年齢分布と女性比率

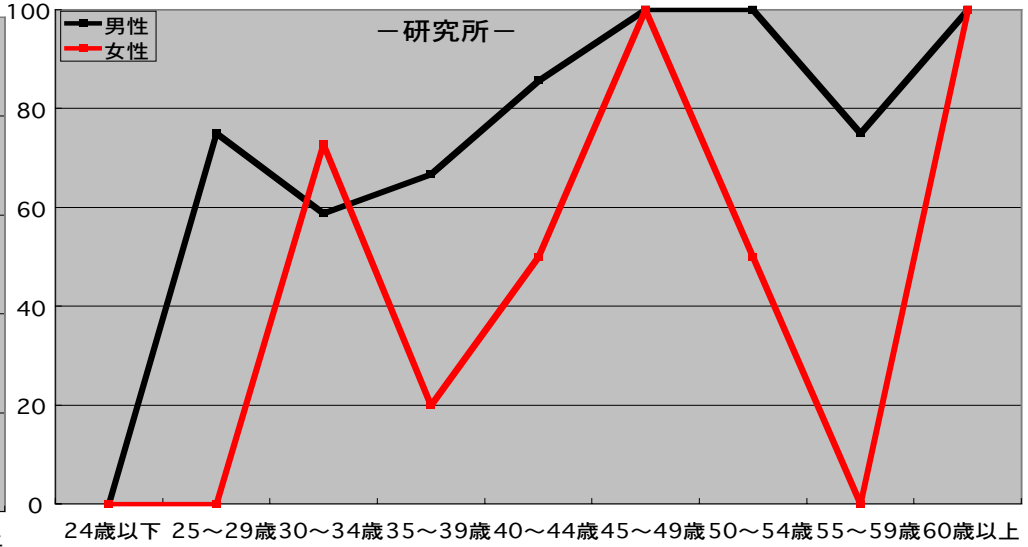


2. 配偶者の有無

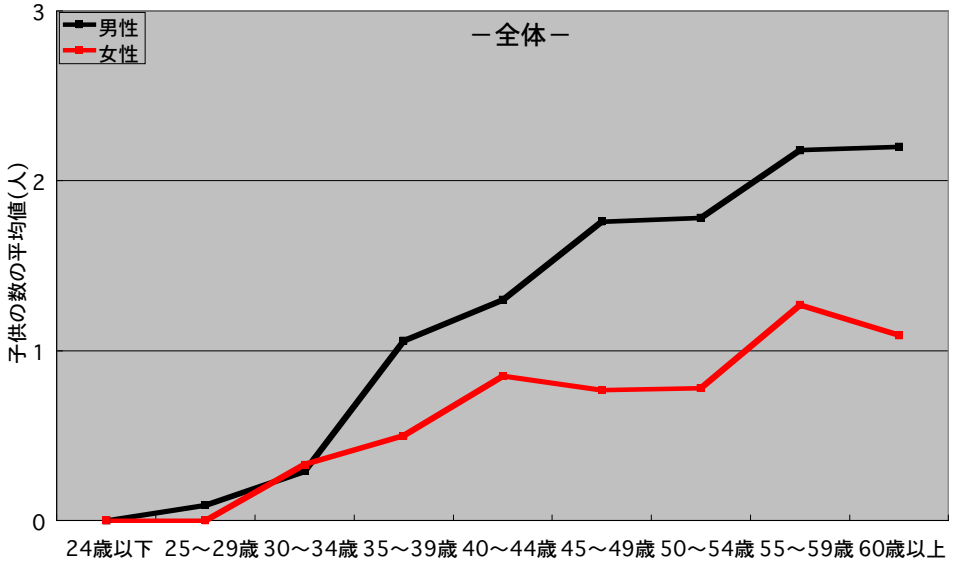

－全体－
男性
女性
割合(%)
100
80
60
40
20
0
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

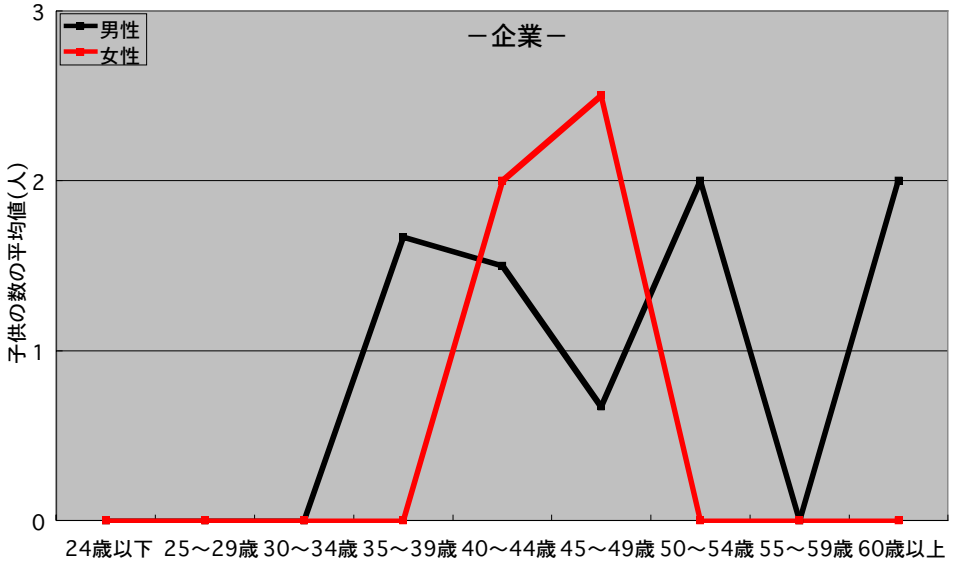

－企業－
男性
女性
割合(%)
100
80
60
40
20
0
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

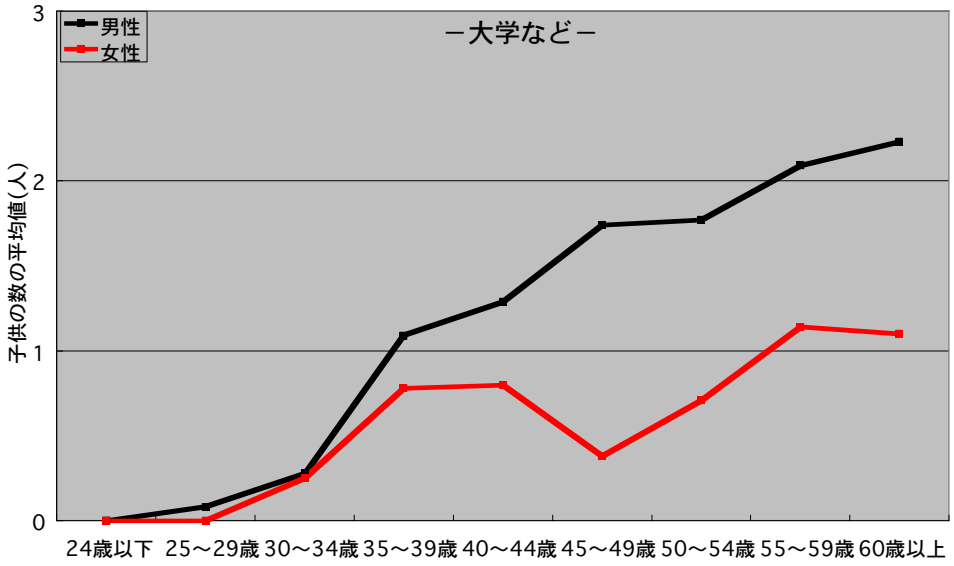

－大学など－
男性
女性
割合(%)
100
80
60
40
20
0
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

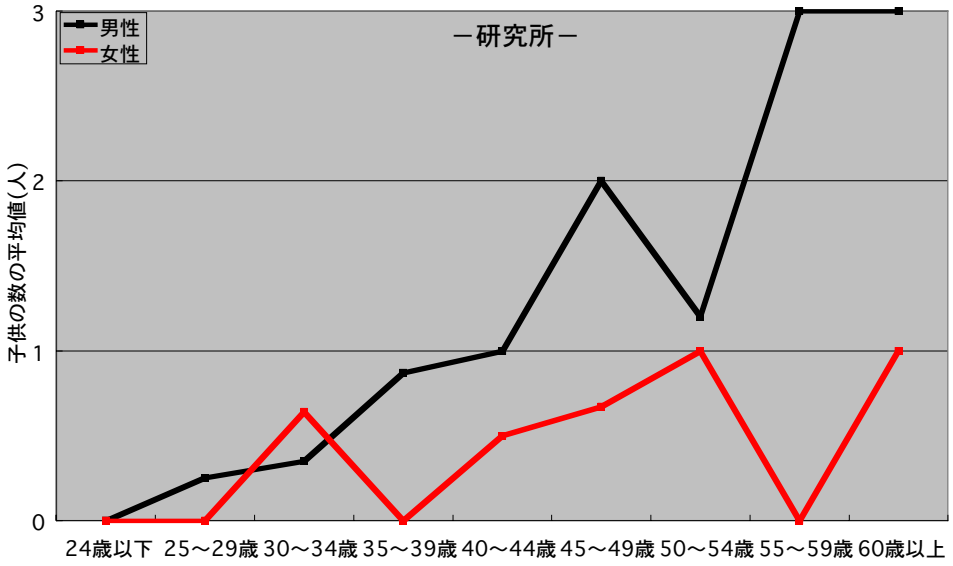

－研究所－
男性
女性
割合(%)
100
80
60
40
20
0
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

3. 平均子供数

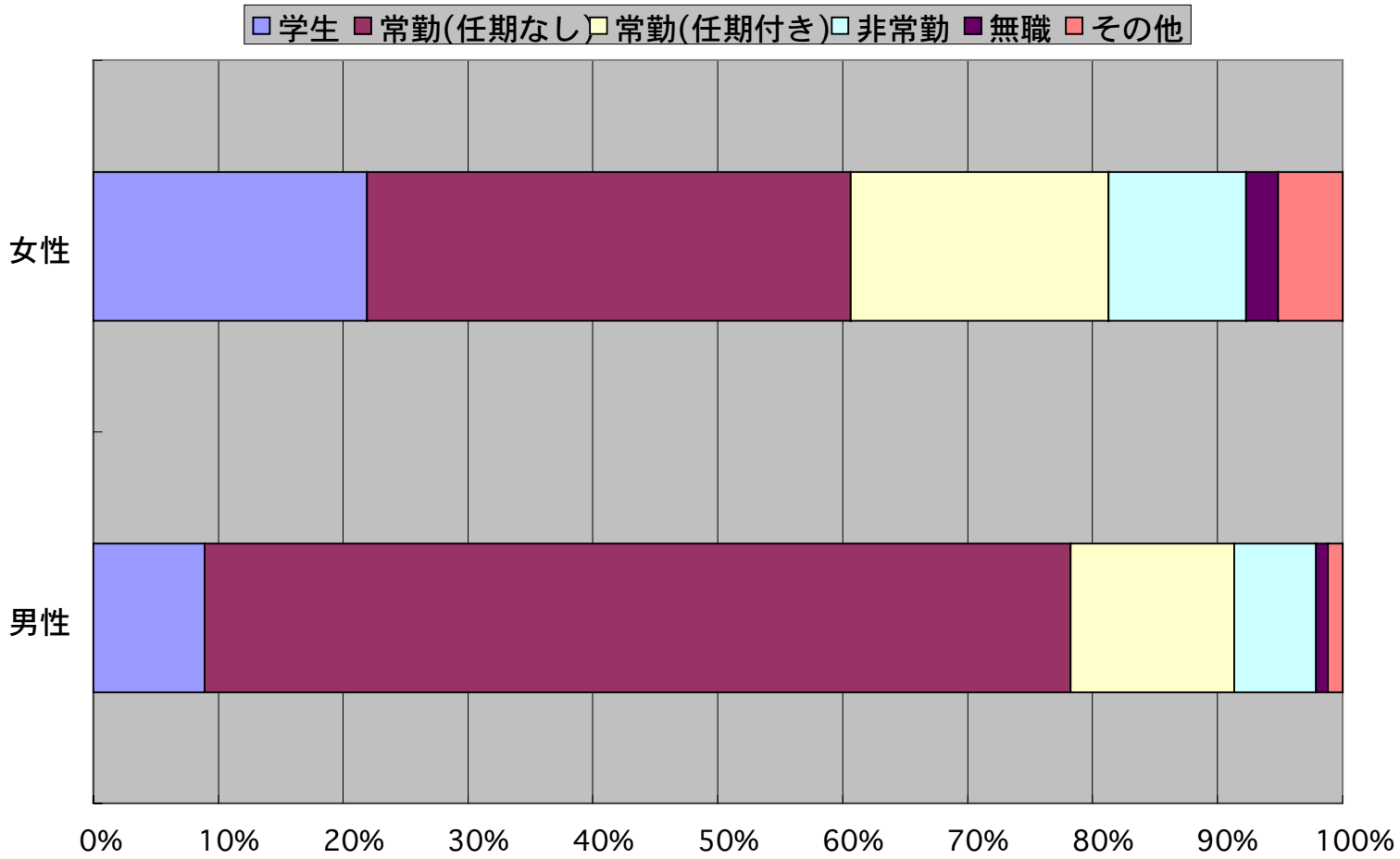

－全体－
男性
女性
子供の数の平均値(人)
0
1
2
3
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上


－企業－
男性
女性
子供の数の平均値(人)
0
1
2
3
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

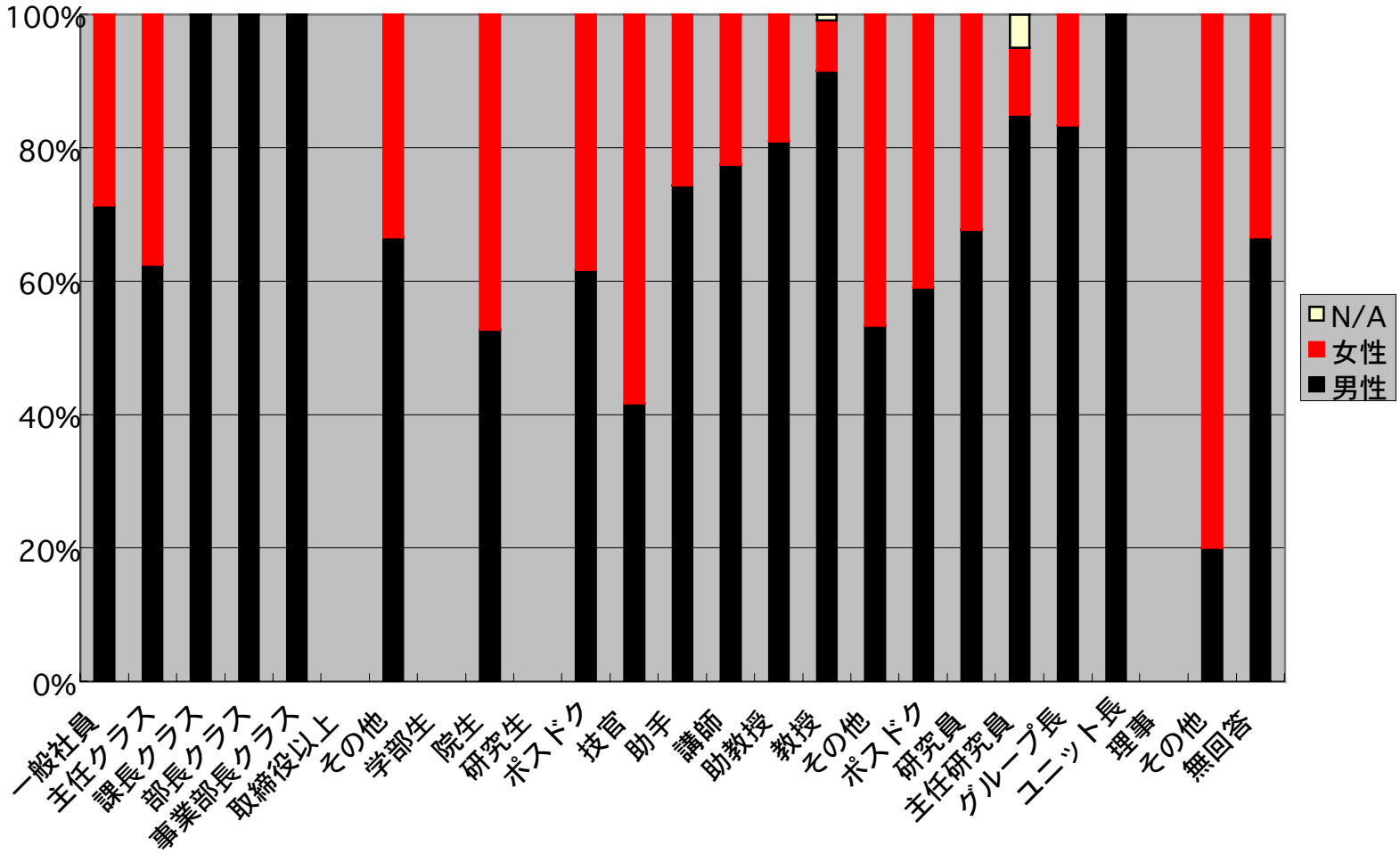

－大学など－
男性
女性
子供の数の平均値(人)
0
1
2
3
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上


－研究所－
男性
女性
子供の数の平均値(人)
0
1
2
3
24歳以下
25～29歳
30～34歳
35～39歳
40～44歳
45～49歳
50～54歳
55～59歳
60歳以上

4．現在の勤務形態

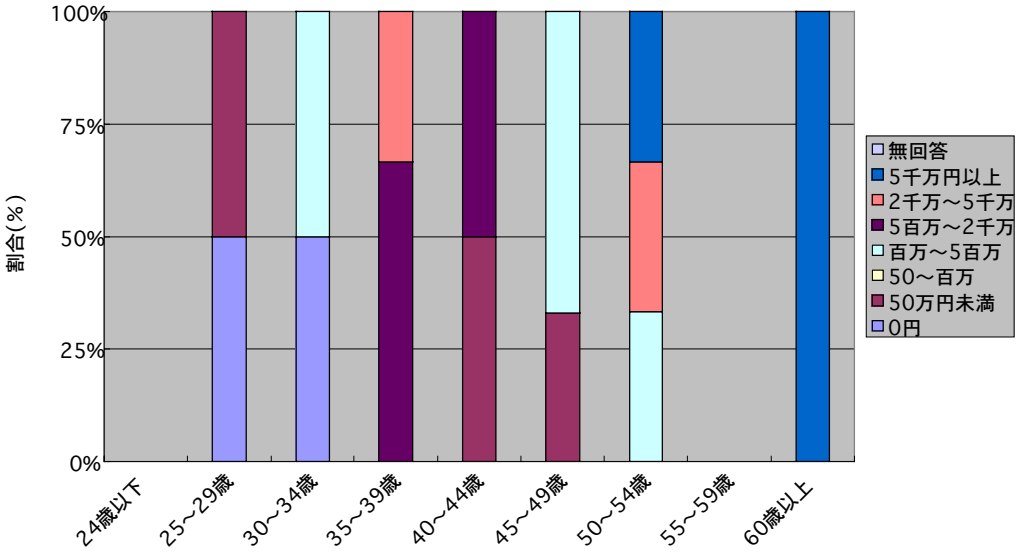


5．役職ごとの男女

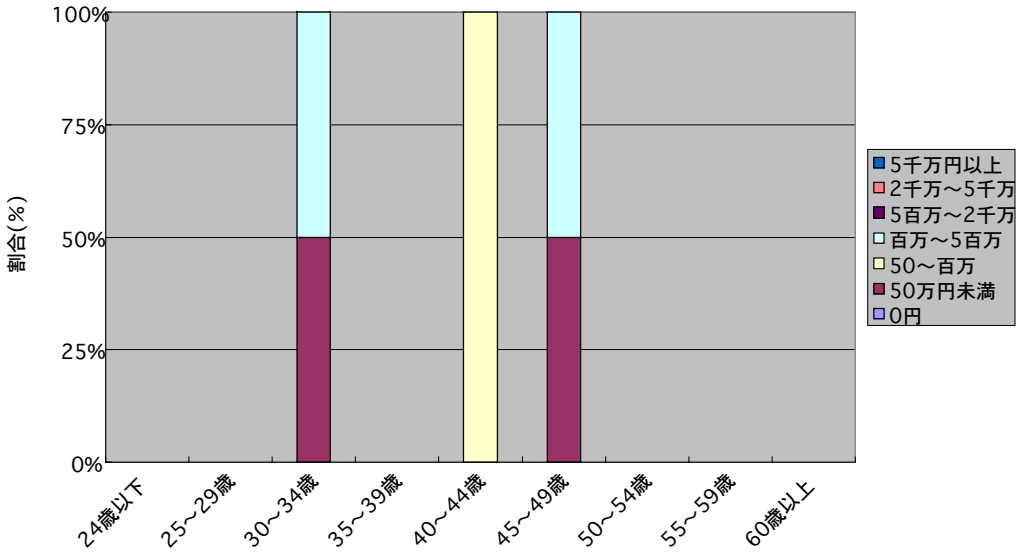

100%
80%
60%
40%
20%
0%
N/A
女性
男性
一般社員
主任クラス
課長クラス
部長クラス
事業部長クラス
取締役以上
その他
学部生
院生
研究生
ポスドク
技官
助手
講師
助教授
教授
その他
ポスドク
研究員
主任研究員
グループ長
ユニット長
理事
その他
無回答

6．研究開発費の年

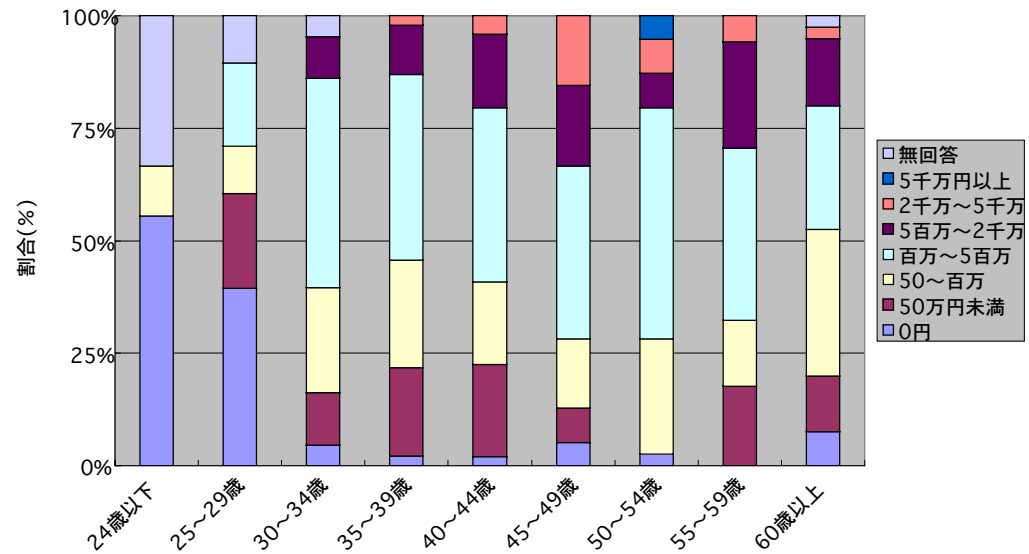
＜男性＞－企業－



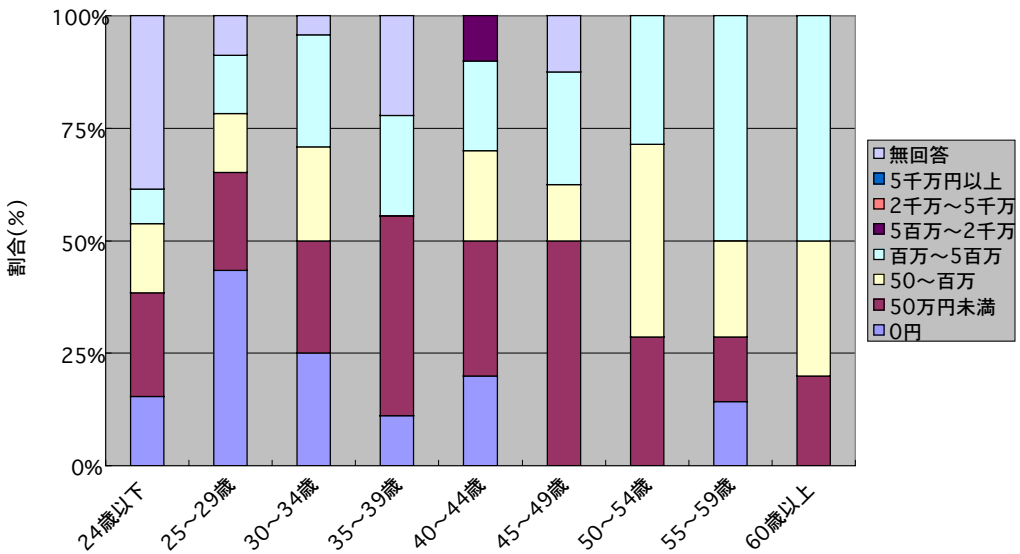
＜女性＞－企業－



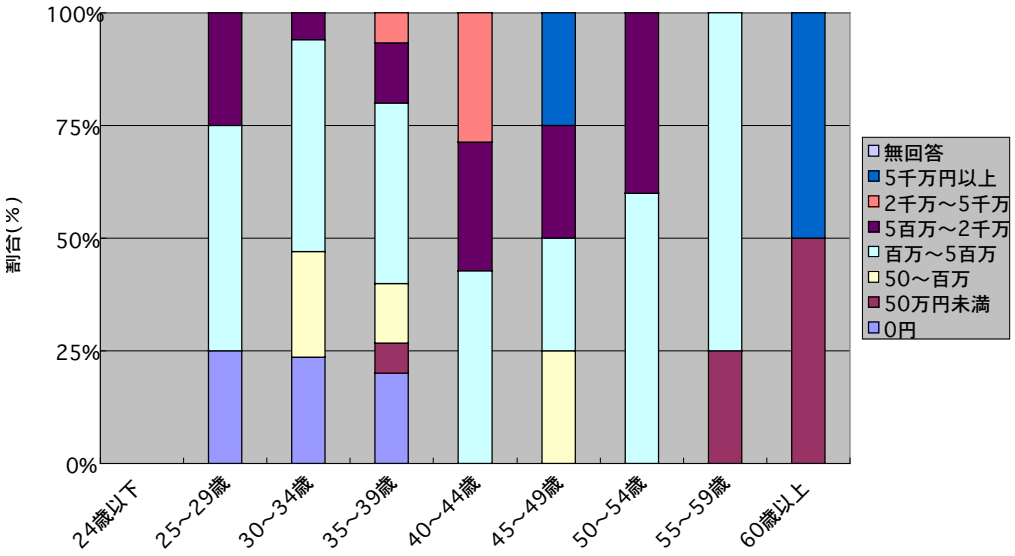
＜男性＞－大学－



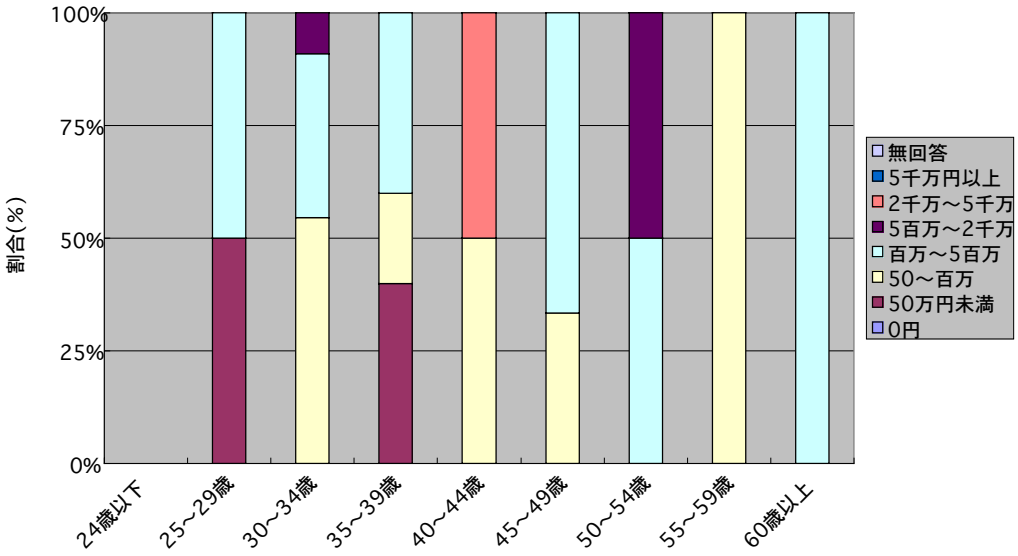
＜女性＞－大学－



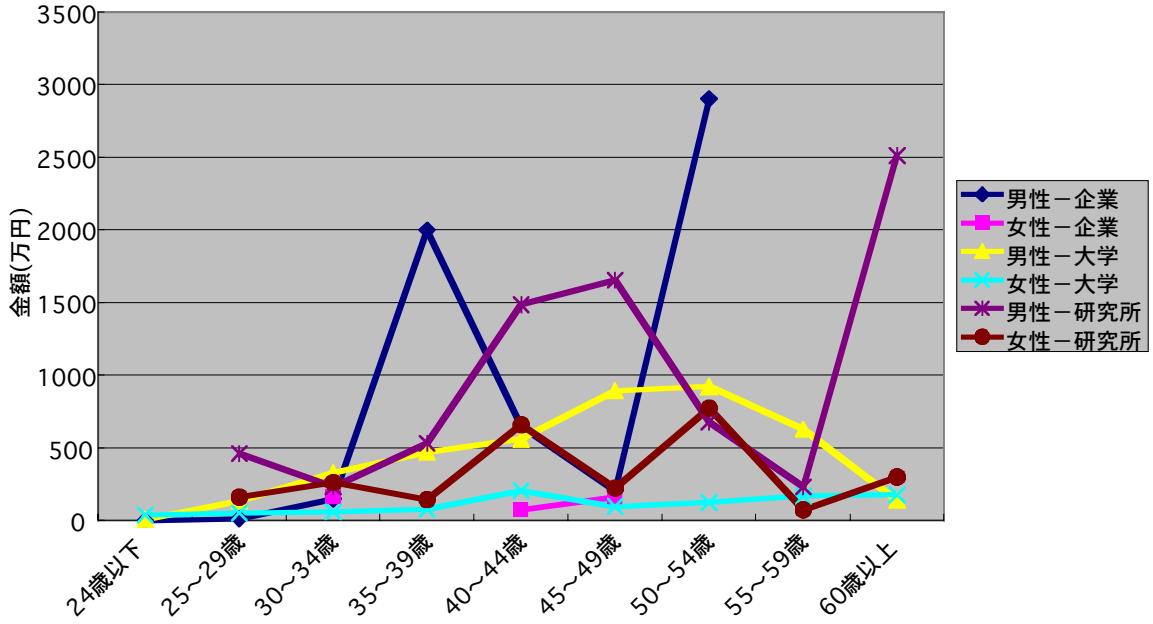
＜研究所＞－男性－



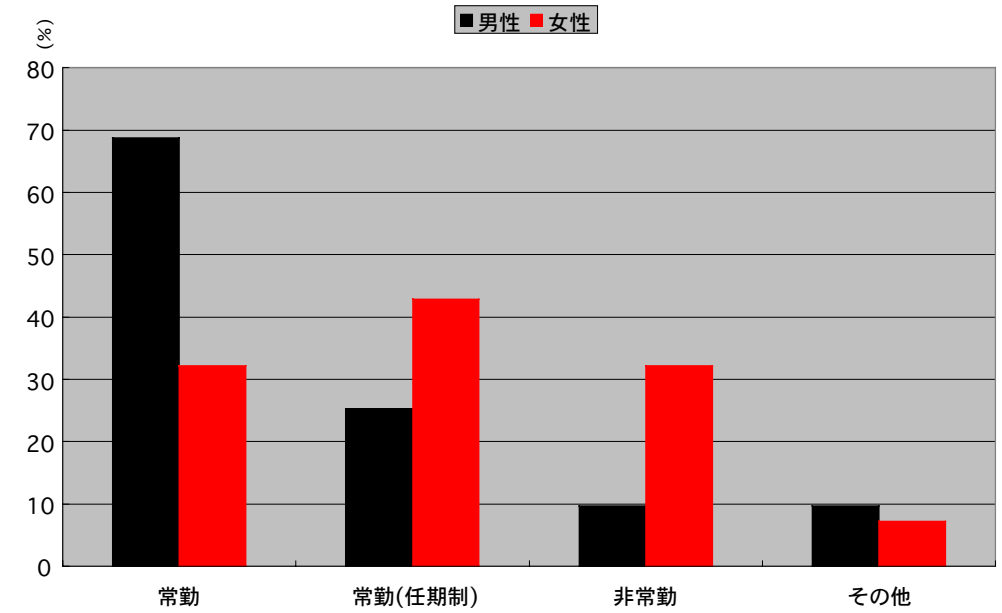
＜女性＞－研究所－



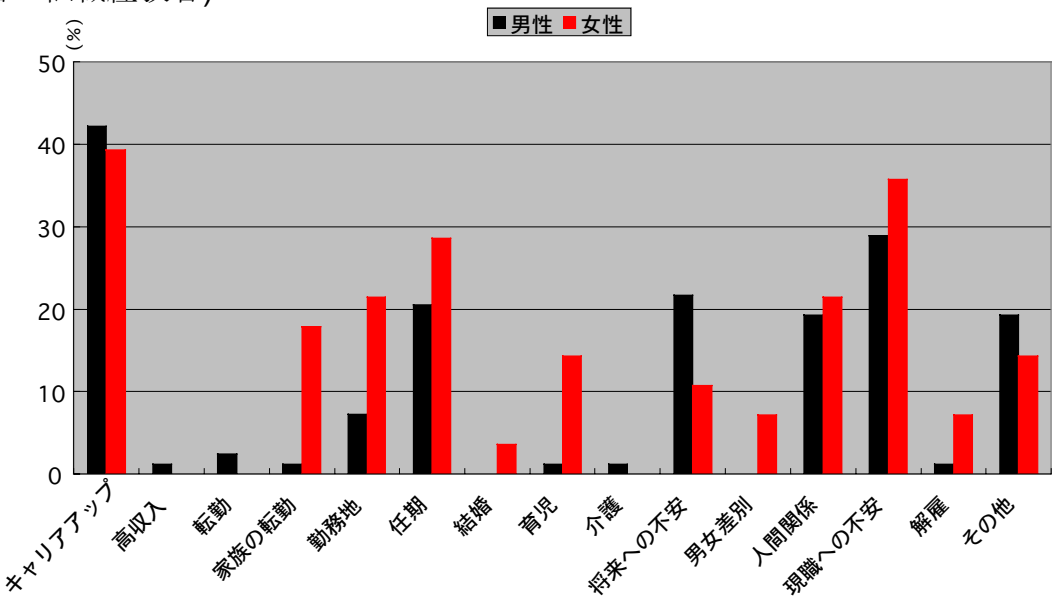
平均年額



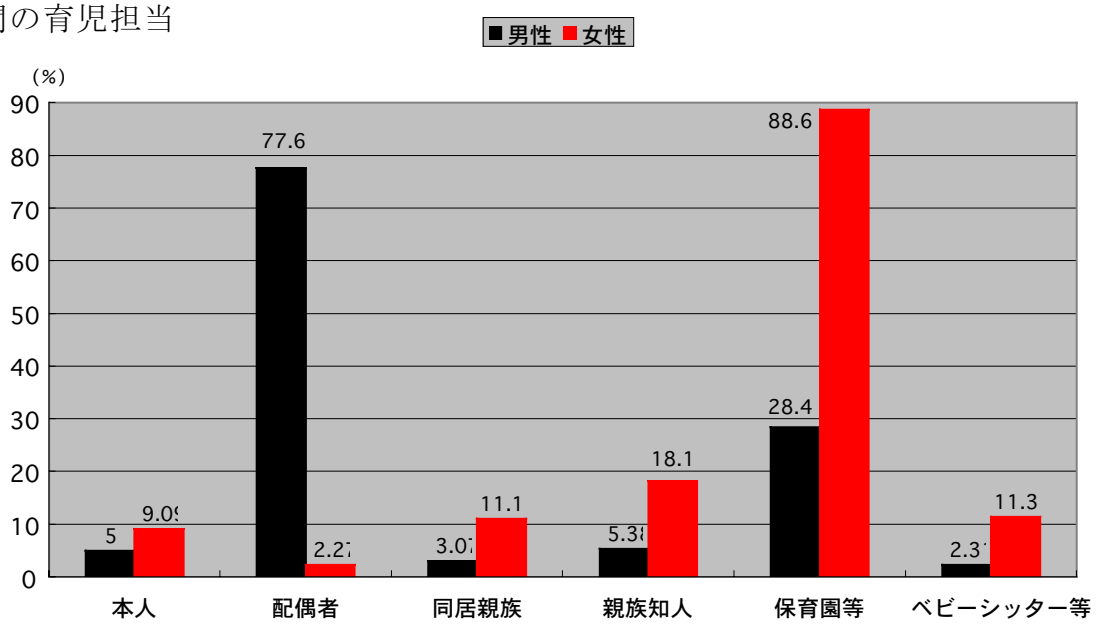
7. 離婚・転職後の雇用形



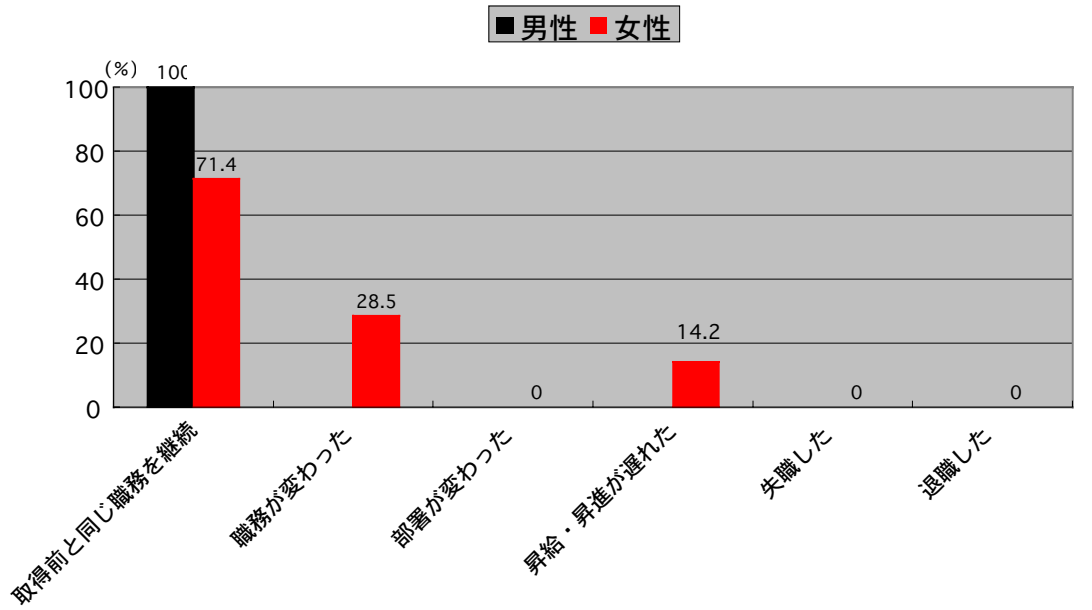
8. 離婚・転職した理由(離婚・転職経験者)



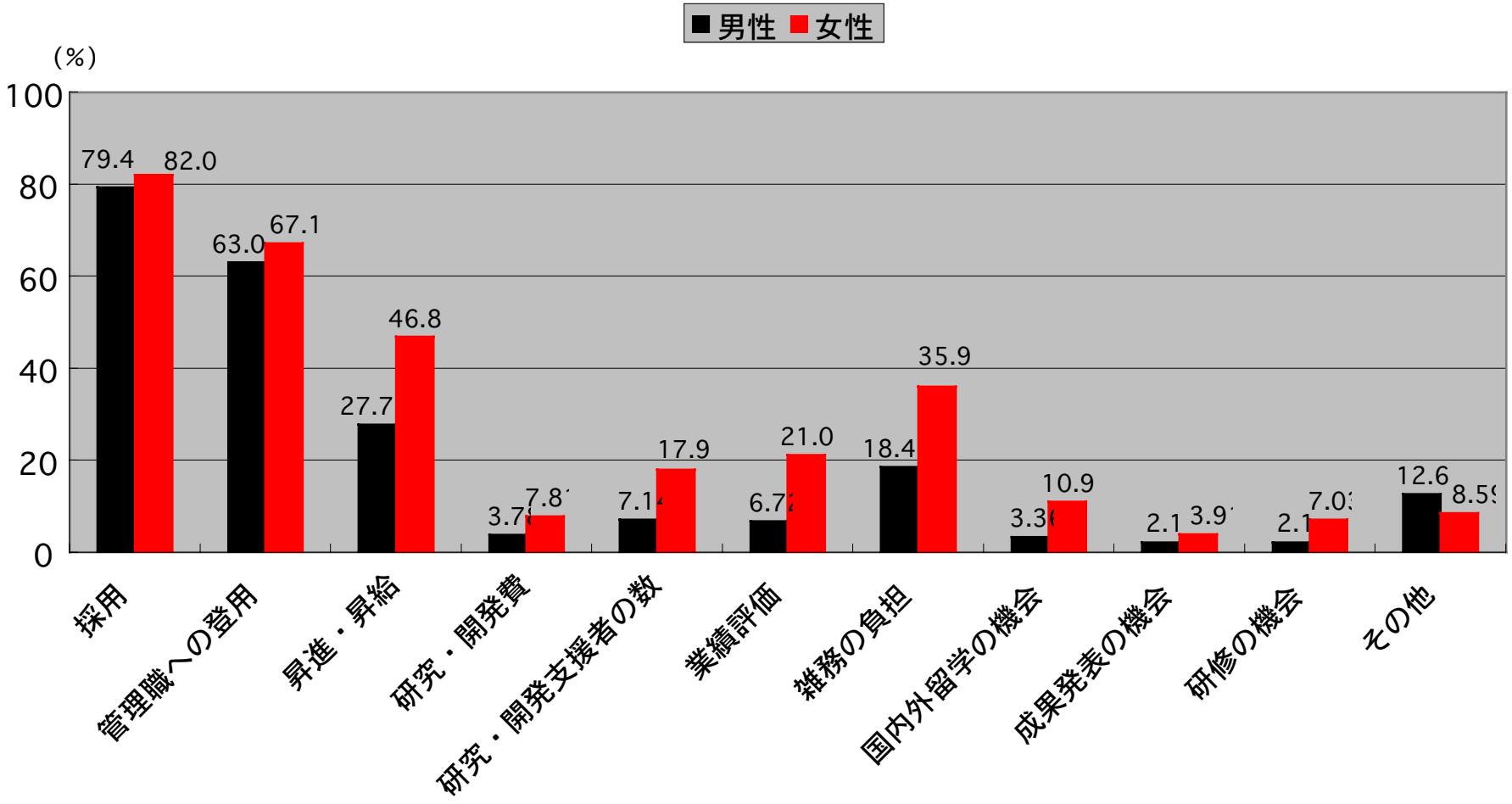
9. 小学校就学前の平日昼間の育児担当



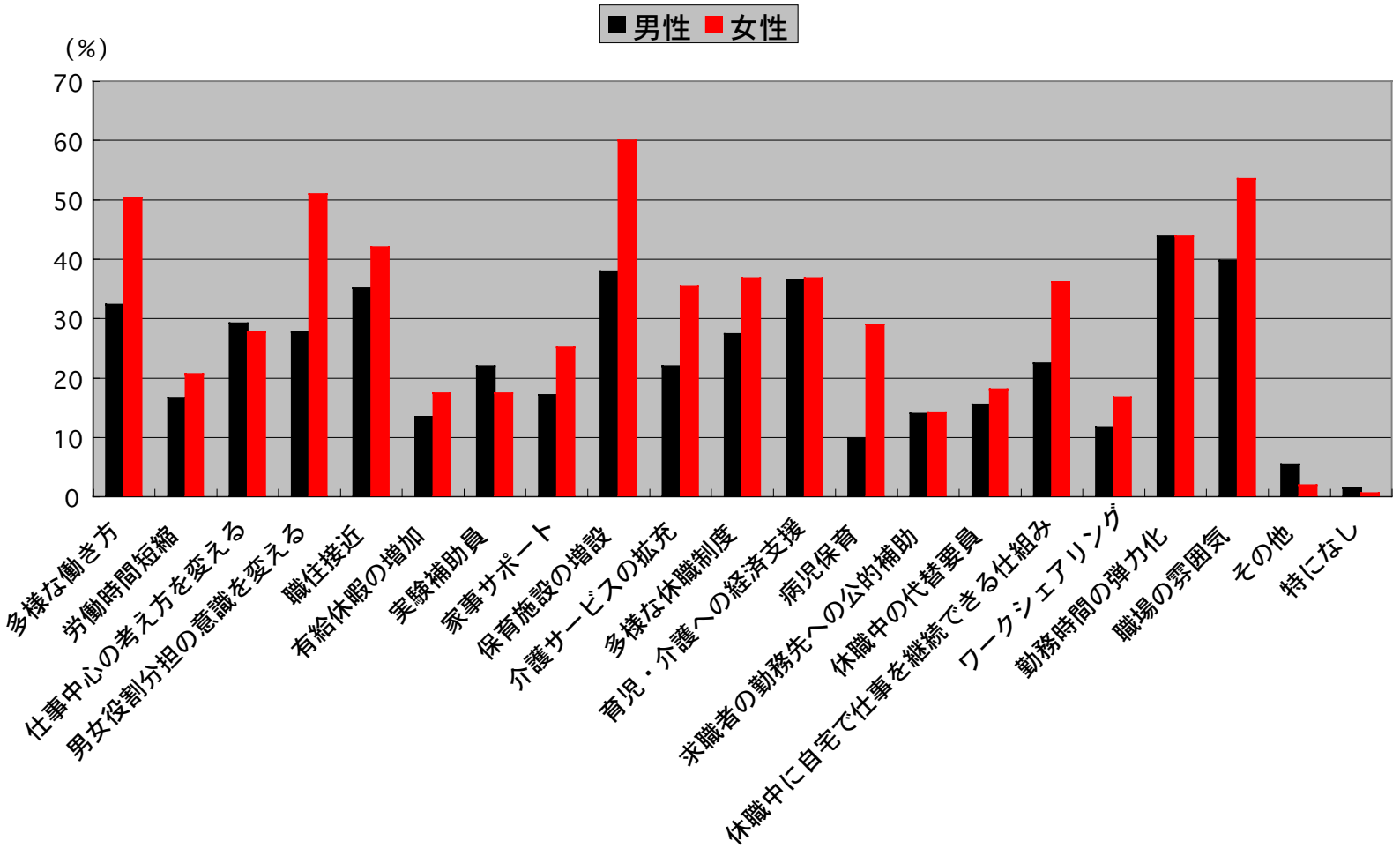
10. 育児休職取得後の影響



11. 科学技術分野で男女処遇差のある点



12. 仕事と育児、介護、あるいは自分のための時間との両立に必要なこと



13. 技術者・研究者に女性が少ない理由